Vol.．217　四市合併　会議所の合併は・・・　（平成23年10月11日）

木更津青年会議所が四市合併を提唱し十余年過ぎ、木更津商工会議所荒井会頭が木更津、君津商工会議所の合併を提案されて３年目を迎えております。

千葉県の市町村合併推進構想の中でも君津地域四市合併推進構想が示されており、１９年６月に四市職員によるワーキンググループ『君津地域四市合併　中核都市問題研究会』が発足いたしております。合併の必要性は認めながらも、様々な理由、背景の中で次の段階の『合併推進協議会設置』に未だに到達していないのが実状であります。

経済界においても新日鐵と住金が来年１０月を目標に合併が進められております。世界有数の大企業も合併して、人材、技術、生産性を集約してリストラによる合理化効果を進めなければ生き残れない時代であります。

各市も会議所も自分達が生き残れるための財政、経済、観光を目指す小都市間の競争は最早通用しないからであります。私達の君津市も会議所も決して楽ではありませんが、他市に比べれば極めて良好だと私は思っております。

全国的には各市町村、商工団体は財政的には極めて深刻な状況だと報じられております。従来、行政区域を超えた会議所、商工会の合併はできないと言われておりましたが、平成の大合併により全国3,232市町村が1,724市町村に集約されたことがきっかけとなり、全国の商工会議所、商工会2,418ヶ所のうち、65ヶ所の会議所が市の境を越えて合併いたしております。

先日、財務省関東財務局千葉所長の記事に『圏央道の開通を間近にして、成田、羽田空港間の大規模な物流基地、住宅地域として木更津は大変魅力ある市場として注目され、メガバンクの融資攻勢が激しくなっている』とありました。

潜在能力に新たな脚光が当たる前兆であります。

最近各種の会議、会合に参加しますとよく言われますことに『君津が主導して四市合併を進めてくださいよ！』と声を掛けられます。

目前に迫る財政上の不安や、この地域経済への共通の展望、仲間意識を持ちたい気持ちからだと思っています。合併のメリット、デメリットは皆さん十分ご存知と存じますので、この回は省略させていただきますが、次の有望産業として観光があります。

現在は日帰り、通過観光地となっておりますが、合併によって市境が無くなれば、新日鐵見学も含めて四市観光ゾーンは宿泊観光、修学旅行コースに変化する可能性大であります。特に市境は好条件を備えながら、市境という立地のため過疎化の大きな原因となっております。

この市境がなくなれば、公共施設も重複しないので、共有利便、親睦交流が盛んになり、地場産業、商店会の育成の相乗効果も期待されます。

地場産業を衰亡させて栄えた地方都市はないからであります。

すでに広域事務組合等がありますが、激しい時代の変化、大災害にはスピードを必要とする決断に対して不向きであります。

圏央道が成田へつながるあたりから、この地域は大きく変わるでしょう。その時、対岸の横浜、川崎との都市間競争に対して、こちらの体力はあまりにも小さすぎます。巨大な経済、財政不況に飲み込まれてしまってから気づいたのでは遅すぎるからであります。